

新都市病院の整形外科が新聞に掲載されました。

(静岡新聞 平成22年9月15日朝刊)

整形外科専門医に聞く、低侵襲手術による「変形性膝関節症」の治療

日本整形外科学会認定 整形外科専門医



新都市病院副院長 坂田 悟 医師

1991年 浜松医科大学医学部卒業
 1991年 浜松医科大学 整形外科教室にて研修開始
 1997年 浜松医科大学にて医学博士号取得
 1998年 ドイツキール大学留学
 1999年 浜松リハビリテーション病院勤務
 2004年 ドイツ ATOS Klinik 留学
 2004年 藤田市立総合病院整形外科長就任
 2010年 新都市クリニック副院長就任
 日本整形外科学会認定 整形外科専門医

医療法人 明徳会
新都市病院
 平成18年に開設され、この6月に
 ベット数19床のクリニックから
 50床の病院に生まれ変わった。
 磐田市中泉御殿 703 番地
 ☎0538-34-0150

人工関節手術は従来、侵襲の高い手術、すなわち患者の身体的負荷、損傷の大きな手術と言われてきた。しかし現在では、低侵襲手術によって皮膚の切開幅を小さくし、なわかつ筋肉を温存して

人工関節による生活復帰と低侵襲手術
 人工関節置換手術は、文字通り、機能を失った関節を人工物の関節に置き換える手術。ひざの痛みをとったり、ひざを曲げて立ったり歩いたりを可能にして、患者が元どおりの生活に戻ること、それが人工関節手術の目的でありゴールとなる。
 人工関節手術は従来、侵襲の高い手術、すなわち患者の身体的負荷、損傷の大きな手術と言われてきた。しかし現在では、低侵襲手術によって皮膚の切開幅を小さくし、なわかつ筋肉を温存して

ひざの機能回復への道
 ひざの痛みや変形は「変形性膝関節症」という病気であることが多く、軟骨がすり減って、ひざの正常な機能が失われた状態になっている。その治療法は、大きく保存療法と手術療法の二つに分けられる。まず保存療法は、関節や骨に直接手を加えずに温存する方法で、運動療法、装具療法、薬の投与など。その次に施されるのが手術療法であり、代表的なものに「高位脛骨(けいこ)骨切り術」がある。脛(すね)の骨のひざに近いところを一部切り取り、足をまっすぐにして体重負荷のパラメータを調整し、痛みをとる方法だ。そしてさらに、治療のいわば最終手段として「人工関節置換手術」が検討される。

人工関節のニースとインフォームド・コンセント
 人工関節の手術を受けるのは六十、八十歳の高齢者が主で、最近では八十歳代も増えている。坂田副院長によれば「元気な高齢者が増えてきて、ひざの機能を再獲得して身体を動かしたいという人が多くなっている」とのこと。また五十歳代でもぜひ手術を望む人もいるという。ひざの痛みや歩行障害の治療には、症状によりさまざまな選択肢があり、まずそれを知るべく、そして手術を受ける際は、入院など手術後のプログラムも十分に理解しておくことが大切だ。いずれにしても、専門医との十分な対話、すなわちインフォームド・コンセントが、何より大切な治療への第一歩となるべきだ。

ひざが痛い、曲がらない、変形してきた、歩くのがつらい——歳をとるごとにこのような症状が現れ、つい自宅に引きこもりがちになってしまう。そんな高齢者は数多い。
 これら関節の病気に対して、今、どのような治療や手術が行なわれているのだろうか。現在の先端的医療について、日本整形外科学会認定 整形外科専門医に話を聞いた。磐田市の「新都市病院」整形外科の坂田悟副院長は、人工関節手術にも多くの実績を持つ、熟練した関節外科の医師である。

ひざが痛む、歩けない…
 こんな症状の改善をめざした
 先端的医療と人工関節